

派遣ロータリークラブ：2670 地区 阿南
受入ロータリークラブ：1060 地区 レディッチ キングフィッシャー
学習機関：バーミンガム大学

平成 25 年 5 月 5 日
国際親善奨学生 杉浦 藤一郎

3 月末で授業を終了し、4 月は課題に取り組む月となりました。約 1 ヶ月で 8 種類の課題をこなさねばならず、授業以上に忙しい日々となりました。作成したレポートの総ページ数は 100 ページ以上になり、クラスメートでも〆切に間に合わない人が続出しました。私はなんとか〆切に間に合わせて提出することができ、今までの授業の内容を実践的に定着させるいい機会になったと感じました。

また、以前にもご紹介した大学図書館ですが、4 月中旬から 5 月末の間は土日も含め 24 時間オープンしています。特に学部生がこの時期に非常に多忙になるため、それに合わせて図書館のスケジュールも調整しているとのことでした。バーミンガム大学ではこの期間だけですが、イギリス国内の他の大学では、一年を通して 24 時間オープンしている図書館も数多く存在するとのことでした。学生の勉強に取り組む姿勢の真剣さと、大学からの手厚いサポートについては、イギリスは世界最高水準であると感じました。

こちらは 4 月に入っても寒い日が続き、コートを手放すことがなかなかできませんでした。4 月下旬に入るとやっと寒さも和らぎ、春らしい日差しが時おり感じられるようになりました。課題提出のために久しぶりに大学に行くと、いつの間にか桜の木が葉桜になっており、季節の移り変わりを感じることができました。



4月中にいくつかのイベントがありましたので報告いたします。

まずは大学のイベントで、私が住んでいるバーミンガムという街から車で30分ほどのところにある、高級車メーカーとして知られる「ジャガー」の工場見学に行きました。工場内は写真撮影禁止であったため、写真が残っていないのが残念なのですが、入り口部分においてあるPR用の車のところだけは写真撮影が許可されました。



現在ジャガーの工場は世界でここだけにしかなく、全てのジャガー車はここで生産されているとのことでした。

工場内は部品を成形する工程と、部品を組み立てて車を完成させる工程の2つにわかれていました。成形工程ではロボットが作業のほとんどを担当していましたが、組立工程では手作業がかなりの部分を占めており、イギリスのハンドメイドの高級車という雰囲気を出していました。特に驚いたのは、オーダーメイドで生産しているため、生産途中の一台一台に購入者の名前や販売先の国等を記した紙が添付され、そこに書かれた色やスペックの通りに生産が進んでいくという生産技術です。ハンドルの左右からタイヤやホイールに至るまで、個々の注文内容を間違いなく作り上げるとのことでした。作業者は毎回異なる作業をすることになるため、単純作業より効率は下がるとのことですが、それがジャガーの車の作り方だとのことでした。また、「KAIZEN」と書かれたボードが工場内に掲示されており、日本の生産技術との融合、特にトヨタ方式の生産力向上対策にも取り組んでいるということでした。

見学終了後に、クラスメートとジャガーの方を交えて、ジャガー工場の中国等の途上国への移転の是非について討論をしました。様々な意見が出されましたが、結論としては、ジャガーは低価格や販売台数で勝負している企業ではないので、ブランドとしてのイメージを保つためにもイギリス生産を続けるべき、という意見が大半を占めました。

私はIT企業での就業経験しかないので、実際にモノづくりをしている現場の迫力には圧倒されました。一流企業でのオペレーションの現場を垣間見る、いい機会になりました。

また、ロータリー関連のイベントが4つありました。

1つめは、「オーブリー (Arbury)」ロータリークラブでのスピーチです。電車で40分ほど離れた街にあるのですが、奨学生コーディネーターのポール様の紹介によりスピーチの機会をいただきました。19世紀初頭に作られた小さな街とのことで、38名のメンバーと勢力的に活動されているとのことでした。



2つ目は、「バーミンガムブレックファスト (Birmingham Breakfast)」ロータリークラブでのスピーチです。その名が表す通り、朝食の時間にミーティングをしているクラブです。私の家から徒歩15分くらいのホールの一室にて、金曜日の朝7時半から9時には終了するようにミーティングを行なっているとのことでした。朝にミーティングをする理由として、企業等のトップであればランチや夕食への参加もしやすいが、中間層ではその時間を確保することが難しいため、仕事への影響がないように朝にミーティングを行なっている、とのことでした。非常に合理的であり、メンバーの裾野を広げる良い試みであると感じました。私自身、卒業後に就職したとしても、朝食のミーティングであれば参加しやすいと感じました。



また、私が在住している1060地区で行われた「ピースカンファレンス」に参加しました。

インターナショナルピースフェローという制度について、私はこのときに初めて知りました。平和学の博士課程を修習する学生に対し、ロータリー財団から援助が行われているということでした。平和学を学ぶ大学も指定されており、世界中で7校ほどしかないとのことでした。日本では国際基督教大学が指定校になっています。イギリスでも平和学で有名なブラッドフォード大学が指定校になっています。

カンファレンスでは、教会の牧師様・大学教授と現役のピースフェローとしてブラッドフォード大学で学んでいるルシアナさんの3名をゲストに迎え、講演とパネルディスカッションを行いました。ルシアナさんは現在ピースフェローとして学ばれていますが、5年ほど前に国際親善奨学生として修士課程を修了した先輩でもあり、貴重な話を聞かせて頂きました。私も奨学生としてご紹介していただきました。



この会議の中で、非常に心に残る話があったのでご紹介させていただきます。閉会の挨拶にて元地区ガバナリーの方がおっしゃられていました。

世界が平和であるということは、あなたの国が平和であるということである。あなたの国が平和であるということは、あなたが暮らす地域が平和であるということである。暮らす地域が平和であるということは、あなたの周り近所が平和であるということである。近所が平和であるということは、あなたとご家族が平和であるということである。あなた自身とご家族が平和のために何か活動をすれば、それは世界が平和へと少し近づいているということである。

私ができることといえば、ロータリーの皆さまとお話いただくこと、クラスメートに日本について知ってもらうことなど、本当に小さなことかもしれませんが、しかしそれが、世界の平和へとつながっていることを信じて、自分ができることだけでも実践していこうと改めて感じました。

最後の4つ目は、奨学生コーディネーターのポール様のクラブで主催されたフロッグレースというイベントです。カエルの絵が書かれた板の上部に穴が空いており、その穴に紐を通して引っ張ることで前に進ませ、早さを競うというものです。カエルの板は全て手作りだということでした。複数のロータリークラブのメンバーの方とご家族に我々奨学生も加えてランダムでチームを作り、夕食を途中にはさんでレースを行いました。このイベントも、参加費の一部が寄付金になるとのことでした。



4月中は、課題は多かったのですが自分でスケジュールを調整できることもあり、多くのイベントに参加することができました。今後の予定としては、学校の方ではリーダーシップ養成のためのトレーニングと、現役コンサルタントによる一週間のコンサルタント講座があります。リーダーシップ養成トレーニングでは、3日間の合宿を行い、岩登りや山歩き等の課題にチームとして限られた時間で取組むという、体力勝負の屋外活動になるとのことです。詳細は当日まで発表されないのですが、今から非常に楽しみにしています。それと並行して、修士論文に向けた調整が始まります。またロータリーにおいては、5月中旬にクラブを訪問する予定になっています。さらに、奨学生コーディネーターのポール様ご夫婦と、5月末に3泊4日のイギリス国内小旅行を計画しています。

大学では、今年9月入学予定者のための英語講座が始まりました。私も去年の7月から9月の間に参加したプログラムで、最も早い人で4月末から参加しています。大学も来年に向けた準備を進めており、だんだんと終わりが近づいてきていることを感じます。残りの留学生生活を有意義なものとなるように、今後とも積極的に活動していきたいと思います。

以上